

先見経済 SENKEN KEIZAI

Since 1938

Jul. 2010

7 15

7月15日号

特集

新人社長ははじめの一步 企業を強くする8つのノウハウ

清話会セミナー講演録

玉置公良
山本紀久雄
杉田定大

熊野の自然に描かれて考える環境と平和
因の鎮上がりは何を物語っているか
これからの日本企業に求められる戦略性

先見TOP interview

人は未来を
選びたいと
思っているのです

作家
本田 健

聞き手・山口哲史

好評連載

井熊均
井徳正吾
今井激
鎌田慧夫
小松義夫
小野勝悟
高橋陽子
沼崎益夫
横田尚哉
和田努

人は未来を選びたいと思いついてくるのです

日本は世界のリーダーになる力を持っている

聞き手▼山口哲史 株式会社プロ・フクティン代表

今月のゲストは、本コーナーには二回目の登場となる本田健氏。数年間のアメリカ生活によって見えてきた、日本社会の可能性とは。社会が変化するなかで個人や組織が適応するための処方箋は——。ベストセラー作家が語る。

「人は成長し続ける」

信仰に駆られたアメリカ人

山口 本田さんはアメリカに行かれていましたが、その理由は何だったのですか。

本田 以前から、海外に住むのが夢だったんです。2、3年住んでみて、自分の考えにどんな変化が起こるのか、とても興味がありました。

山口 事前のイメージと実際のギャップはありましたか。

本田 アメリカの光と影がともよく見えました。アメリカ社会では、保険に入れないような貧困層と、とてつもないお金持ちが共存していますが、両者の生活圏ははっきりと区分されている。例えば、日本では、高島屋に行く人はユニクロにも行くでしょうか。でもアメリカでは

ニーマン・マーカーズに行く人はウォルマートには行かない。ブランドのポジションが明確なのです。それだけではなく、年収や資産によって学校も職場も住んでいる場所も違うので、日常に出会うことがありません。

山口 リーマン・ショックも現地で経験されたのですか。

本田 私は2005年から09年まで住んでいましたが、それはちょうどアメリカが資本主義のピークを迎え、崩壊していく過程と同じでした。05年ごろは、不動産は上がり続けると誰もが信じ切っていた。僕の運転手やお手伝いの方にも不動産購入について相談を受けたほどです。それを見ながら、この住宅バブルは今がピークで、もつてあと1年だと感じていました。





先見TOP interview
with 作家

本田 健

ホスト

山口哲史 (やまぐちてつし)

1961年兵庫県生まれ、関西学院大学文学部卒業後、リクルートなどを経て90年、現(株)プロ・アクティブの前身のワイルド・アクティブを設立。竹100%でできた緑茶など自然でジュアなエネルギーを活用した「人を自然に輝かせる(ラディアンズ)」力のある健康、美容商品の企画・販売を手掛ける。社内外ともに「ガッツさん」の愛称で親しまれている。

http://www.pro-active.co.jp

山口 結果はまさにその通りになったわけですね。
本田 そうした経験は、自分のなかでとても勉強になりました。経済が好調だと人はおこるし、反省しないし、傲慢になると基本的に、人は成長し続けるという幻想のもとに人生を生きています。でも、実際には波がある。それをコントロールするという思想が、少なくともこの10年間アメリカにはありませんでした。知性的な人でも狂ってしまったことを目の当たりにしたのです。

彼らはみな、一流の大学を卒業してMBAを取得したような賢い人たちばかり。だけど人生の知性はなく、時代や経済の大枠の流れまでは読み切れませんでした。例えば、有名大学を卒業して年収1000万円からス

タートしたような右肩上がりの勝ち組には、数年先も甘い予測でしか見通せない。だから過度の消費活動に走り、結果的に破産に追い込まれたのです。

山口 成功していた人たちが一気につまづいてしまったと。
本田 バブルのときも優秀な人ほど傷みました。このとき一番もつたいなかったのは人材の喪失だと思えます。傷ついていたのは、すべてパワフルで前向き、周りよりも走りの速かった人たちがかり。明治維新だって、優秀な人たちはみな死んでしまい、うまく立ち回った人だけが新政府に顔を揃えた。それと同じで、80年代から90年代にかけて、資産を温存できたのはビジネスを展開しなかつたほうの人たちだけです。

山口 サブプライムローンで破産した人たちには再挑戦の場が与えられているのでしょうか。
本田 アメリカには不動産価格がローンを下回った場合でも不動産を返せばいいというノンリコースローンがあります。だから破産まで追い詰められる人は少ないし、優秀な人にはチャンスを与える伝統もある。だから人材の喪失は少ないのです

が、その反面、何度同じ過ちを繰り返しても懲りません。金融界にはそのような人々が今も残っている。またいつ彼らが経済を破壊するかわからない。ただ、この数年で資本主義の行方には結論が出ると思います。

新しいOSの登場が
社会を変える
本田 日本では、まったく新しい価値観を持ったリーダーが登場するでしょう。彼らの共通項は、わかりやすくいえば、「昭和のOS(オペレーティングシステム)」を持っていないこと。

山口 新しいOSを探すために、人々の意識が分散化しているようにも思いますね。
本田 人の生き方は、これからパラレルワールドになっていきますよ。自分のキャリアや成功に惹かれる人たち、家族との時間を大切にしている人たち、一生懸命を貫く人たち、引きこもる人たち。それぞれの趣味嗜好で体験する人生がまったく異なっていくのです。いまや、同じ年代

「頑張る」「為せばなる」では通用しなくなつた

現在でも、相対的な価値観は変化しつつあります。
山口 「昭和のOS」とは具体的にどのとうなものですか。
本田 「がんばる」とか「気合い」、「為せばなる」などを座右の銘にしている人たちといえはわかりやすいでしょうか。
例えは、「成功」や「夢」というタイトルの本は売れなくなりました。昔ほど人々には成功し

の子どもに共通する将来像のモデルケースはなくなつてしまつた。その人の人生は、その人が築き上げてきたものや生き様によってのみ反映されるという、ある意味でハイリスクハイリターン時代の入つたのです。
山口 それが経済にも明らかに影響を及ぼしていますね。
本田 今は、感性が非常に大切な時代ですよ。高い安いは関

たいという意識が強くない。それよりも、今の人たちは、「自分らしく生きる」ことに価値を見いだしているのです。
山口 新しいOSを探すために、人々の意識が分散化しているようにも思いますね。
本田 人の生き方は、これからパラレルワールドになっていきますよ。自分のキャリアや成功に惹かれる人たち、家族との時間を大切にしている人たち、一生懸命を貫く人たち、引きこもる人たち。それぞれの趣味嗜好で体験する人生がまったく異なっていくのです。いまや、同じ年代

の子どもに共通する将来像のモデルケースはなくなつてしまつた。その人の人生は、その人が築き上げてきたものや生き様によってのみ反映されるという、ある意味でハイリスクハイリターン時代の入つたのです。
山口 それが経済にも明らかに影響を及ぼしていますね。
本田 今は、感性が非常に大切な時代ですよ。高い安いは関